

# 小学校算数B (主として「活用」に関する問題)

平成29年度  
全国学力・学習状況調査

## 問題の趣旨

算数に関する学習内容のうち、身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力について調べる問題です。身近な事象について、式・表・グラフなどを利用しながら解決したり、算数の考えを使って説明したりする問題が出題されています。

## 全体の正答率

\* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して  
2.8ポイント下回っています

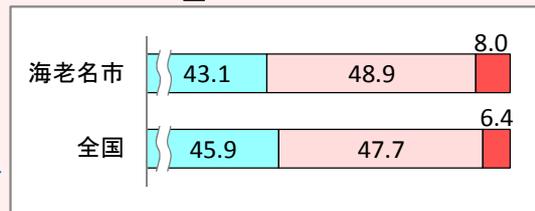
### 《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
算数B	43.1	46.0	45.9	-2.8

誤答の様子は…

### 《誤答の内訳(%)》

■ 正答 □ 誤答(書いたが不正解だった)  
■ 無解答(何も書かなかった)

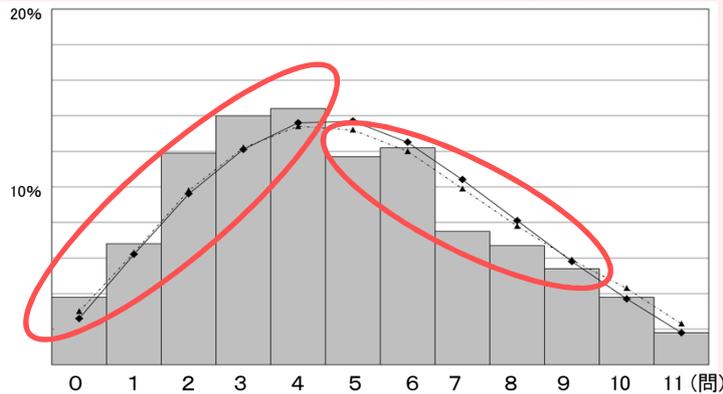


無解答率(何も書かなかった)は8.0%でした。

分布の様子は…

### 《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると  
正答数が4問以下の児童が多く  
5~9問の児童が少ない  
ことがわかります

\* 正答率50%以下(0~5問)の児童の割合は62.5%でした。(全国は57.7%)

\* 正答率80%以上(9~11問)の児童の割合は10.9%でした。(全国は11.2%)

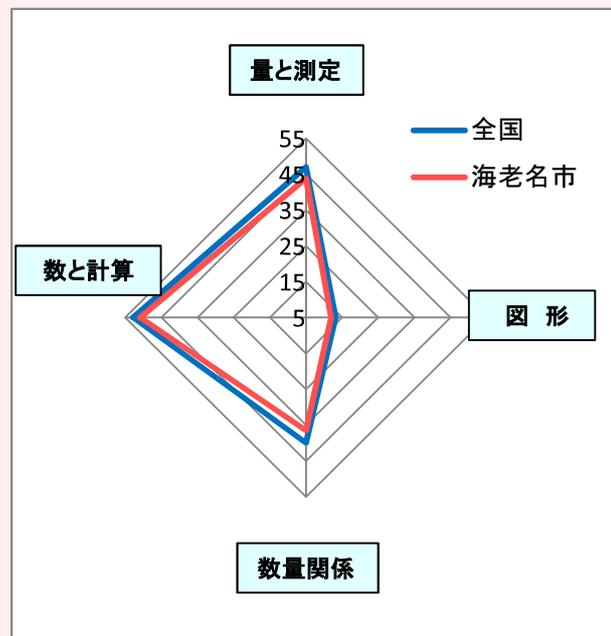
## 領域別の正答率

全領域において全国と比較して  
下回っています

### 《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
数と計算	50.9	52.8	-1.9
量と測定	43.9	47.0	-3.1
図形	12.0	13.2	-1.2
数量関係	36.5	40.0	-3.5

\* 「量と測定」「数量関係」については、3ポイント以上、下回っていました。特に「数量関係」については、3.5ポイント下回っていました。



## 内容について

\* ( )内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問	なし 〔すべての設問において全国と同値または下回りました〕
	《全国と同値だった設問》 ○ 4本の平行な直線を使って手紙を3等分に折る方法を読んで、13本のときの方法を考える。(±0)

全国を下回った設問	○ 満月の見た目の大きさについて、最少の直径の長さで最大の直径の長さを正しく表している図を選ぶ。(−7.2)
	○ 仮の平均を使って平均を求めている式を参考にしながら、別の値を仮の平均として求める方法を書く。(−6.0)
	○ 調査結果を表にまとめるとき、示された数が表のどこに入るのか選ぶ。(−4.3)

### 算数Bで平均正答率が全国を下回った設問の例

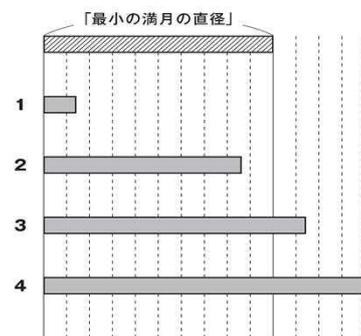
割合が示された文章を読んで、正しい図を選ぶ設問 (全国との比較-7.2)

※「月の大きさは変わらないが、地球からの距離により見かけの大きさが変わる」という説明を読んで

「最大の満月の直径」と「最少の満月の直径」を比べたとき、「最少の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。

「最少の満月の直径」を▨、「最大の満月の直径」を■として、図に表します。

「最少の満月の直径」をもとにして「最大の満月の直径」が14%長いことを表しているものを、右の1から4までの中から1つ選んでその番号を書きましょう。



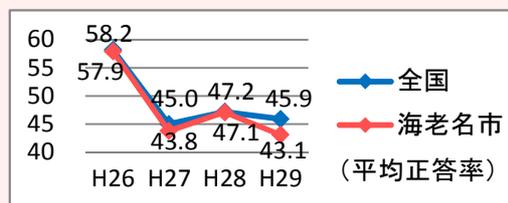
正答 3

☆算数Bのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

## 考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が4問以下の児童が多く、5～9問の児童が少ないことから、基礎的な力を生かして問題を解決する力を高める必要がある。
- ◆ 「数量関係」の領域については、割合や平均などの理解が不十分なことから、その活用が難しい状況が見られる。
- ◆ すべての設問において全国より無解答率が高いことから、設問の意図を読み取る力を身につける必要がある。

## これまでとの比較



◆ 平成28年度は差が縮まり全国と同程度になったが平成29年度はこれまで以上に差が広がっている。

◆ 平成28年度は2領域において全国を上回っていたが、平成29年度は全領域において全国を下回っている。

## 指導の改善にむけて

- ◆ 「学習した内容を活用する力を高める」ために
  - 数量関係については、算数的活動を多く取り入れ、具体的なイメージを持てるように指導する。
  - 既習事項を使って身近な問題を解決する楽しさを味わわせ、問題解決への意欲を高めるように指導する。